



各 位

平成 17 年 2 月 15 日

会 社 名 株式会社富士テクノサービス
代 表 者 名 代表取締役 高井 男
(コード番号 2336)
問 い 合 せ 先
役 職 氏 名 取締役副社長 原田 久仁子
電 話 046-250-1666

通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 16 年 11 月 15 日に発表いたしました平成 17 年 3 月期(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)の通期業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

(1) 第 29 期業績予想数値の修正(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

(単位:千円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	2,400,000	25,000	23,000
今回修正(B)	2,100,000	5,000	3,000
増減額(B-A)	300,000	20,000	20,000
増減率(%)	12.5	80.0	87.0
前期実績(平成 16 年 3 月期)	1,693,873	65,644	90,006

(注)1.1 株当たり予想当期純利益(通期)688 円 86 銭

2.第 28 期 1 株当たり当期純損失(実績)20,667 円 36 銭

3.第 28 期実績における「1 株当たり当期純損失」は期中平均株式数により計算しております。また、第 29 期(予想)における「1 株当たり当期純利益」は第 3 四半期末の発行済株式数を基に計算しております。

(2) 修正の理由

売上高は前年実績を上回りましたが、技術者派遣事業につきましては、高度技術者不足により派遣人材をタイムリーにお客様に提供できませんでした。デジタルエンジニアリング事業につきましては、新規プロジェクトの受注が予想よりも遅れてしまい、来期に約 3 千万円の売上の計上を見込んでおります。ソリューション事業につきましては新規事業展開している 3D モデリングシステムの販売が新規顧客獲得に苦戦し大型プロジェクトの受注が予想よりも遅れてしまい、来期に約 1 億円の売上の計上を見込んでおります。これらの理由により売上高が前回予想を達成するのは難しいものと判断いたしました。

利益につきましては、売上高の未達に加え、コスト削減への取組みを実施したにもかかわらず、技術者派遣人件費や設備維持費等の売上原価の増加および採用経費の増加により、経常利益、当期純利益とも前回予想を下回る見込みとなり、まことに遺憾ながら、通期業績見通しの修正を行うことになりました。

今後、技術者派遣事業につきましては、より付加価値の高い顧客へと技術者を派遣すべく戦略的ローテーションの実施を行う予定であります。デジタルエンジニアリング事業につきましては、既存顧客への深耕及び提案型ビジネスを展開する予定であります。ソリューション事業につきましては、現

在の当社派遣先企業（特に自動車業界）へのアプローチを今まで以上に行う予定であります。

なお、上記業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以 上